

# 6年1組 国語科学習指導案

場 所 6年1組教室  
授業者 安田 奈保美

1 単元・教材名 自分の感じたことを、朗読で表現しよう 「やまなし」

## 2 指導の立場

### (1) 教材観

「やまなし」は、「私」による一人称視点で書かれた外枠（最初と最後）と、中の部分に三人称の客観的な視点によって書かれた二枚の幻灯（「五月」「十二月」）が位置付けられた、額縁構造になっている。また、「かのに親子」の会話を軸に様々な小動物や植物が登場し、色鮮やかな情景が描かれている。このような構造・表現の特徴を捉えることで作品世界を深く味わい、「イーハトーヴの夢」と重ねて読むことによって、自分の思いや考えをもち、朗読で伝える学習を進めていきたい。

自分が感じたことを朗読で表現するには、まず、優れた表現を味わいながら読む必要がある。それによって自分なりの思いや考えをもてる。次に、それを聞く人に伝える工夫が必要となる。情景を具体的に思い描いたり、登場人物の気持ちを想像したりしながら、言葉の響きやリズムに特徴がある表現を生かすよう心がけ、朗読する。作者のものの見方や感じ方、作品世界の原風景を知るためには、「イーハトーヴの夢」が参考となるだろう。

「やまなし」は、宮沢賢治の深い思想性をもつ作品であるといわれる作品の一つである。また、擬声語・擬態語、造語、色彩表現、比喩など、賢治独自の言葉の響きの美しさ、不思議さ、魅力にあふれている作品でもある。読者が想像力を膨らませ、豊かに広げるための言葉がちりばめられている。特に、「クラムボン」や「イサド」などは、賢治独特の造語であり、読者には、何を指しているのか明確にはならない。児童にも、自分なりの根拠とこだわりの読みによって賢治の作品にひたり、自分流の読みを培うことに適した教材である。

### (2) 児童の実態

今年度4月に行った全国学力学習状況調査では、国語の学習は大切である（79.4%）と感じてはいるものの、好きではない（67.6%）と感じている傾向が見られた。「登場人物の人物像について、叙述を基にして捉える」設問の正答率は50%で、言葉や表現に着目して読み取る力は低い。また、「文章の内容を的確に押さえ、自分の考えを書く」設問の正答率は50%で、文章を読み取った後に自分の考えを書く力も付いているとは言えない。

今年度初めての学習単元「支度」では、作者の呼びかけに対する自分の答えを書く活動で、自分の経験と照らし合わせて考えられたが、それを言葉に表したり、深く向き合って考えたりする児童は大変少なかった。そのため、自分の思いや考えが伝わるように音読の仕方を考えるときに、それを聞く人に伝える工夫へとつなげることが難しかった。「カレーライス」では、登場人物の心情を表す表現（行動、会話文、内言）に着目して読み進めることで、根拠をもって読み取る力を付けてきた。読み進める中で児童なりに心に芽生える思いや考えを、主人公に共感するかしないか、その理由を感想として書く活動を積み重ねることで、作品とじっくりと向き合い、自分の考えをまとめる力を身に付けてきた。

朗読では、相手に向けて、自分の解釈で物語を語るという意識が大事である。5年「大造じいさんとガン」「わらぐつの中の神様」での「語り手」の学習を振り返ることで、「やまなし」における「五月」と「十二月」を「私」が幻灯を見せて語っているというイメージをもたせたい。そうすることで、自分の感じたことを朗読で表現する意識が高まると考える。

### (3) 指導観

#### 【研究内容1】に関わって

第三次の言語活動として「朗読で表現する」ことを位置付け、言語意識を次のように設定する。

相手意識・・・・・・・・学級みんなに

目的意識・・・・・・・・自分が感じ取った「やまなし」の世界を伝えるために

場面・状況意識・・・・朗読発表会で

方法意識・・・・・・・・自分の感じたことが伝わるように朗読する

評価意識・・・・・・・・作品中の描写や表現の豊かさや美しさ、作品にこめられた作者の思いをとらえ、朗読することができるか

朗読をすることは、登場人物の心情を想像したり、表現の特徴を捉えたりして物語全体を深く理解するとともに、自分なりの解釈をもつことにつながっていく。このことは、今後、物語を読む際にも大切なことになると考える。朗読発表会に向けて、場面を選び、朗読の仕方を考えるときには、「やまなし」について想像したことのみならず、作者の生き方や考え方、そこから、「やまなし」という作品に描かれている思いや願い、理想や価値観を想像しながら朗読させたい。叙述から、「どのような賢治の思いや願いを想像したか」をもとに、「どのように読むか」を考えさせながら読ませたい。これが、「どこを読むか」を選ぶ根拠となっていく。

#### 【研究内容2】に関わって

児童が、限られた時間数の中で、作品の世界を読み味わい、自分が感じたことを朗読に表すためには、「読みの視点」を提示し、それに沿って想像を広げることが大切であると考えた。そのため、第1時で「やまなし」の全文を音読した後、「五月」と「十二月」を谷川マップとして絵図に表し、全体で押さえておく。

一人読みの段階で、読みの視点「水や光の様子」「色」「かへの言動」「上から来たもの」を確認し、この谷川マップに想像したことを書き込んでいくようにする。「色」はわかりやすくで囲むようにする。また、前時の学習の足跡として「五月」で読み取ったことや、工夫して書かれた児童のノートを掲示して、他の児童がノートづくりや課題を追究するための手助けとなるようにしていく。

まとめの段階では、読み取った「十二月」の情景から一部分の朗読について考える。ペア交流時には、自分が「どのように」読みたいかを話してから朗読するようにし、お互いに聞き合って自分の感じたことが朗読に表れていたかをペアで評価する。

#### 【研究内容3】に関わって

交流前段において、仲間の発言に関連させて自分の考えを発言できるように指導していく。「北小のめざす聴き方・話し方」の話形を活用して、反応しながら全体交流ができるようにしていきたい。仲間の発言に対して自分の立場を明らかにしていくことで、学級全体で課題解決に迫ることができるようにしていく。

交流後段において、読み取った「十二月」の谷川の様子をまとめておき、深めの発問『P116L11～P117L8の部分では、どのような朗読をするとよいだろう。』を投げかけ、「十二月」で想像した情景や自分の思いが表れるようにするには、どのように読むとよいかを考えていく。その一部分が書いてあるプリントを準備しておき、朗読記号を付けたり、「どのように」読みたいかを考えて記入したりしていく。

### 3 単元の目標

作品の特徴や作者の思いを捉え、自分の感じたことが伝わるように朗読することができる。

【読(1)ア】

場面についての描写を捉え、作品の中で使われている表現を味わいながら、優れた叙述について自分の考えをまとめることができる。

【読(1)エ】

5 本時のねらい

様子を表す言葉や比喩表現，かのにの兄弟の言動を手がかりにして，穏やかで幸せな谷川の情景を想像し，朗読で表現することができる。 【読(1)ア・エ】

6 本時の展開（7 / 10）

\* 人権教育の観点

	学 習 活 動	指導・支援 見届けの視点
導入	<p>1 前時までの学習を想起する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「十二月」になって，川底の景色はすっかり変わった。</li> <li>・川の流れるゆるやかになり，冷たくて透き通り，静かな感じ。</li> <li>・かのにの兄弟は大きくなり，はいた泡の大きさでけんかをしていた。</li> </ul> <p>2 本時の学習課題を確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>自分の朗読に生かすために，「十二月」後半の谷川の情景を想像しよう。</p> </div>	<p>前時までの流れを想起し，本時の課題を確認する。</p> <p>本時の課題に向けて，様子や情景が想像できる叙述（「水や光の様子」「色」「かのにの言動」「上から来たもの」）に着目することを確認する。</p> <p>まとめの段階で朗読を考える一部分の場所をあらかじめ確認しておく。</p> <p>色については，分かりやすいように で囲むよう助言する。</p> <p>「五月」の谷川マップを振り返り，「水や光の様子」や「色」「上から来たものを」を，谷川マップに記入していくよう助言する。</p>
個人追究 / 交流前段	<p>3 一人読みをして，全体交流をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「十二月」後半を音読し，用印や情景が想像できる部分に線を引き，ノートの谷川マップに記入する。</li> <li>・かのにの兄弟の言動から，谷川がどのような状態になったのか考え，ノートに記入する。</li> <li>・自分の考えを発表する。</li> </ul> <p><b>水や光の様子</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「なるほど」 納得している。</li> <li>・「いいにおいでいっぱい」 幸せそうな感じ。</li> <li>・「水はサラサラ」 にごりがない。</li> <li>・「月光のにじがもかもか」 波に月光が当たって，虹色に光ってきれい。</li> <li>・「波は，いよいよ青白いほのおを上げ」 やまなしを強調している感じ。</li> <li>・「金剛石の粉」 美しい，輝いている。</li> </ul> <p><b>かのにの言動</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「かわせみだ。」 「五月」のことを思い出して，恐がっている。</li> <li>・「両方の目をあらんかぎりのぼして，よくよく見てから」 しっかり確認している様子。</li> <li>・「ついでにってみよう。」 二人を誘っていて，楽しそう。</li> <li>・「やまなしの後を追いました。」 「丸いかげを追いました。」 いいにおいのするやまなしに興味をもっている。</li> <li>・「おいしそうだね，お父さん。」 怖くなくなっている。</li> </ul> <p><b>上から来たもの</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「そのとき，トブン」 突然のことなので，驚きがある。</li> <li>・「黒い丸い大きなもの」 驚き，かわせみかもしれない。</li> <li>・「きらきらと黄金のぶちが光りました。」 美しく輝いている。</li> </ul>	<p>かのにの親子の言動は，どの言葉から考えたのか，書き抜くよう助言する。</p> <p>どの言葉から考えたのか，根拠を明確にして話すよう声をかける。</p> <p>* 言葉を手がかりに，谷川の様子やかのにの親子の気持ちを豊かに想像する力を育てる。（自己啓発力）</p> <p>読み取った「十二月」の様子や情景を朗読に生かしやすいように，朗読の仕方を考える前に，『「十二月」は冷たくてきれいな水の底で，「五月」とは違って，平和でおだやかな谷川の様子である』ことをまとめておく。</p>
交流後段	<p>4 深めの発問を提示して，ペアでどんな朗読がよいか考え，朗読記号を付けたり，「どのように」読みたいかを記入したりする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>P 116L11 ~ P 117L8 の部分では，どのような朗読をするとよいだろう。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「トブン」は，ドブンやドボンと違って，軽い感じ。だから少し小さく軽く読むといい。</li> <li>・「かわせみだ。」は，驚いて怖がっているから，大きく素早く読むといい。</li> <li>・「ああ，いいにおいだな。」は，うっとりとした感じなので，ゆっくりと笑顔で読む。</li> <li>・「なるほど」は，納得している感じで大きな声で読んでみよう。</li> <li>・「いいにおいでいっぱいでした。」は，幸せな様子だから，ゆっくりと強調して読みたい。</li> </ul>	<p>朗読の仕方を記入しやすいように，朗読記号や朗読で気をつけるポイントを掲示しておく。また，想像したことから「どのように」読みたいかという視点で読み方を考えて書くよう確認する。</p> <p>定着状況の見届け</p> <p>「十二月」後半の谷川の情景を読み取ったことをもとに，朗読記号や「どのように」読みたいかを記入することができているか。</p>
まとめ	<p>5 互いに朗読を聞き合い，ペアで評価する。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>かのにの親子は，何か落ちてきてかわせみかと思って驚いているが，やまなしとわかってうれしくなって後を追う様子を朗読で表す。</p> </div>	<p>【評価規準】</p> <p>様子を表す言葉や比喩表現，かのにの兄弟の言動を手がかりにして，穏やかで幸せな谷川の情景を想像し，朗読で表現している。【読(1)ア・エ】</p>

4 単元指導計画(全10時間計画)

過程	時	主な学習活動(課題・着目する語句・深めの発問)	単元を貫く 課題/言語活動	評価規準【観点】
一 次	1	<p>「やまなし」を読んで、初発の感想をまとめよう。</p> <p>・「やまなし」に書かれている世界をイメージしながら本文を音読し、そこから感じたことや考えたこと、疑問に思ったことなどを初発の感想にまとめる。</p>	<p>自分の感じたことを、朗読で表現しよう。</p> <p>すぐれた表現を味わうことで、情景を具体的にイメージし、朗読で表現する。</p>	<p>擬態語や擬声語、造語や比喩などの表現に気づきながら「やまなし」を読み、初発の感想を書いている。</p> <p>【関・意・態】</p>
	2	<p>「朗読」について知り、学習計画を立てよう。</p> <p>・NHK デジタル教材「お伝と伝じろう～声だけで表現しよう」を見て、朗読の仕方を知る。</p> <p>・学習計画を立て、学習の見通しをもつ。</p>		<p>「朗読」について知り、「朗読発表会」に関心をもち、学習の見通しをもとうとしている。</p> <p>【関・意・態】</p>
	3	<p>「イーハトーヴの夢」を読み、宮沢賢治の生き方や考え方を知ろう。</p> <p>・「イーハトーヴの夢」から、宮沢賢治がどのような人物なのかを様々な視点から読み取り、人物像をまとめる。</p>		<p>「イーハトーヴの夢」を読み、宮沢賢治の生き方や考え方を理解している。【読(1)エ】</p>
二 次	4	<p>自分の朗読に生かすために、かわせみがくる前の「五月」の谷川の情景を想像しよう。</p> <p>・様子や情景が想像できる叙述(水や光の様子、色、かへの言動、上から来たもの)に着目して、「五月」前半の谷川の様子を読み取る。</p> <p>着目:「青白い水の底」「青く暗く鋼のように」「つづつ暗いあわ」「水銀のように光って」「銀の色の腹」「日光の黄金」「夢のように」「光のあみ」「白い岩の上」「美しくゆらゆらのびたり縮んだり」</p> <p>深め:P110L10～P111L3の部分では、どのような朗読をするとよいだろう。</p>		<p>様子を表す言葉や比喩表現を手がかりにして、谷川の様子を想像し、朗読で表現している。</p> <p>【読(1)ア・エ】</p>
	5	<p>自分の朗読に生かすために、かわせみがやってきた「五月」の谷川の情景を想像しよう。</p> <p>・様子や情景が想像できる叙述(水や光の様子、色、かへの言動、上から来たもの)に着目して、「五月」後半の谷川の様子を読み取る。</p> <p>着目:「黄金の光」「まるつきりくちやくちやく」「鉄色に変に底光りして」「黒く静かに」「底の光のあみの上」「白いあわ」「青光りのまるでぎらぎらする鉄砲たまのようなもの」「いきなり飛びこんで」「青いものの先」「コンパスのように黒くどがっている」「白い腹がざらっと光って」「光の黄金のあみはゆらゆらゆれ」「あわはつづつ流れ」「ぶるぶるふるえて」「白いかばの花びら」「花びらのかげは静かに砂をすべり」</p> <p>深め:P112L2～L11の部分では、どのような朗読をするとよいだろう。</p>		<p>様子を表す言葉や比喩表現、かへの兄弟の言動を手がかりにして、谷川の情景が暗く恐ろしく変化したことを想像し、朗読で表現している。</p> <p>【読(1)ア・エ】</p>
	6	<p>自分の朗読に生かすために、「十二月」前半の谷川の情景を想像しよう。</p> <p>・様子や情景が想像できる叙述(水や光の様子、色、かへの言動、上から来たもの)に着目して、「十二月」前半の谷川の様子を読み取る。</p> <p>着目:「白いやわらかな丸石」「小さなきりの形の水晶」「金雲母のかげら」「ラムネのびんの月光」「波が青白い火を燃やしたり消したりしているよう」</p> <p>深め:P114L8～P115L3の部分では、どのような朗読をするとよいだろう。</p>		<p>様子を表す言葉や比喩表現、かへの兄弟の言動を手がかりにして、「五月」とすっかり変わったことを具体的にとらえ、朗読で表現している。</p> <p>【読(1)ア・エ】</p>
	7 (本時)	<p>自分の朗読に生かすために、「十二月」後半の谷川の情景を想像しよう。</p> <p>・様子や情景が想像できる叙述(水や光の様子、色、かへの言動、上から来たもの)に着目して、「十二月」後半の谷川の様子を読み取る。</p> <p>着目:「トブン」「黒い丸い大きなもの」「ずうっとしずんで、また上へ上へがって」「きらきらと黄金のぶちが光り」「やまなしのいいにおいでいっぱい」「ほかほか流れていく」「おどるように」「サラサラ鳴り」「青いほのおを上げ」「月光のにじがもかもが集まり」「青白いほのおをゆらゆらと」「金剛石の粉をはいているよう」</p> <p>深め:P116L11～P117L8の部分では、どのような朗読をするとよいだろう。</p>		<p>様子を表す言葉や比喩表現、かへの兄弟の言動を手がかりにして、穏やかで幸せな谷川の情景を想像し、朗読で表現している。【読(1)ア・エ】</p>
三 次	8	<p>自分の朗読に生かすために、「五月」と「十二月」を比べ、「やまなし」にこめられた宮沢賢治のメッセージを考えよう。</p> <p>・「五月」と「十二月」を比べ、感じたことを交流し合う。</p> <p>・宮沢賢治の人物像や「やまなし」の学習について振り返り、宮沢賢治が「やまなし」で伝えなかったことは何なのか、話し合う。</p>		<p>「五月」と「十二月」を比べ、共通点や相違点について感じたことを交流し、題名「やまなし」について、自分なりの考えをもっている。</p> <p>【読(1)エ】</p>
	9	<p>朗読の仕方を考え、朗読発表会の練習をしよう。</p> <p>・「やまなし」の中から朗読したい部分を選び、宮沢賢治のどんなメッセージを伝えたいのかを明らかにした上で、朗読練習をする。</p>		<p>宮沢賢治のどんなメッセージを伝えたいかを明らかにして、朗読している。</p> <p>【読(1)ア】</p>
	10	<p>場面の情景や宮沢賢治のメッセージが伝わる朗読発表会をしよう。</p> <p>・朗読発表会を行う。</p> <p>・互いに聞き合って、気づいたことを感想にまとめる。</p>		<p>情景の様子や作者の思いを伝えるための工夫を取り入れ、自分が選んだ部分の朗読をしている。</p> <p>【読(1)ア】</p>